

2018年度学生アンケートの結果

2018年度の学生アンケート（調査期間：2018年12月）結果について報告する。在籍者375名（2018年12月現在（休学者除く）のうち、274名（男141名、女115名、不明18名；経営37名、心理14名、文化30名、教育76名、国際教養112名、不明5名；日本人学生150名、留学生116名、不明8名）より回答を得た（回収率：73.1%）。以下、日本人学生（以下日本人とする）と留学生に分けて結果を示す。

1. 大学生生活の満足度

大学生生活の満足度（「満足」～「不満」の4段階評価）について、「満足」もしくは「ほぼ満足」に回答したものの割合を図1に示した。留学生は全ての項目で日本人を上回っており、全般的に満足度が高い。日本人は、「クラスメイト」及び「ゼミナールⅠ・Ⅱ」が高いが、「ゼミナールⅢ・Ⅳ」は50%を下回っている。

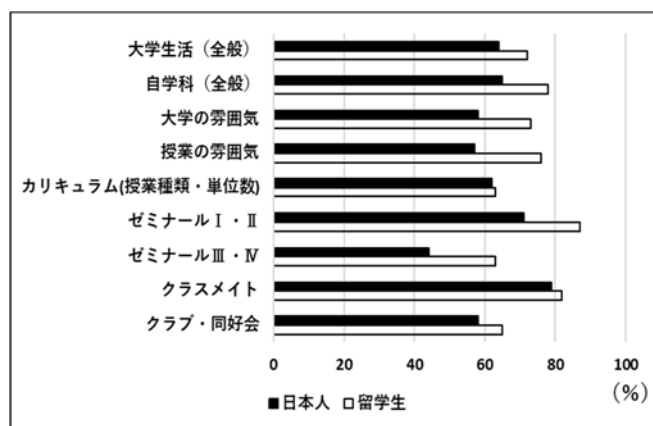


図1 大学生生活の満足度

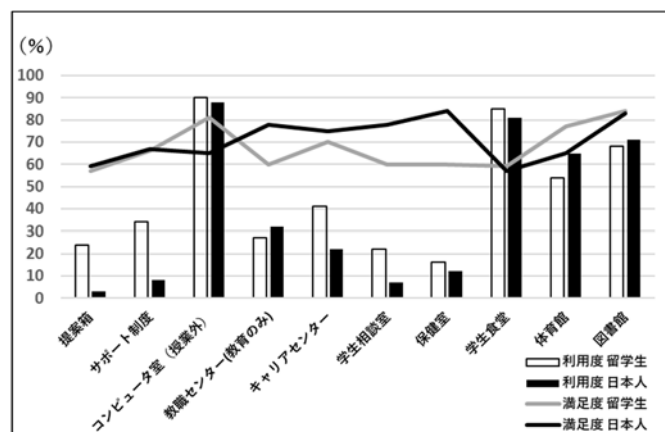


図2 大学施設・制度の利用度と満足度

2. 大学施設・制度の利用と満足度

大学の施設及び制度の利用度（「よく利用した」～「全く利用しなかった」の4段階評定）と満足度（「満足」～「不満」の4段階評価）の結果は、利用度として「よく利用した」と「ときどき利用した」、満足度として「満足」と「ほぼ満足」に回答したものの割合を図2に示した。満足度は全項目で50%を超えていた。特に図書館は両群ともに80%以上で利用度も高い。他に日本人は保健室、教職センター、学生相談室の満足度が高い。留学生は他にコンピュータ室、体育館の満足度が高かった。学生食堂は両群とも利用頻度は80%以上であるが、満足度は50%台と低く、今後検討の余地がある。事務局対応に関する満足度は、日本人の窓口開設時間が59%で、他の項目は両群ともに80%前後の高い満足度を示した。

3. 日常生活

睡眠と食事の状況を図3に示す。「よく」および「だいたいとれている」と回答していたものは、睡眠は留学生65%、日本人55%で日本人の方が不足している。食事のバランスは留学生77%、日本人82%であった。一日の平均学習時間（授業時間を除く週当たりの平均）を図4に示す。留学生は85%が1日平均1時間以上学習するのに対して日本人は56%であり、特に1時間未満と答えた学生が43%で最も多く重要課題である。本学のクラブ等への参加、学外サークルへの参加、アルバイトの実施をしている学生の割合を図5に示す。日本人の学内クラブ等への参加者数は75%で昨年より20%増加した。留学生は横ばいであるが、学外サークル活動が増加しているためカルト宗教等への注意及びアルバイトに時間を費やす傾向については制限時間を遵守するように指導をしていく。

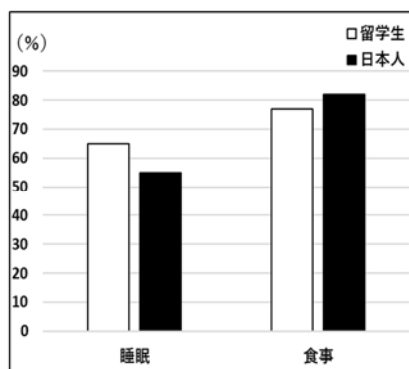


図3 睡眠・食事の状況

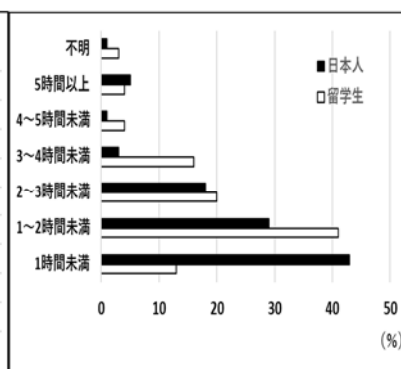


図4 一日の平均学習時間

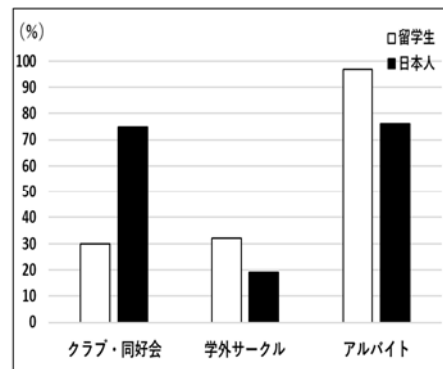


図5 クラブ・アルバイト等の状況